

淀江傘

今に伝える匠のこころ



展示室のご紹介

野点傘をはじめ、蛇の目傘、番傘、色番傘など
沢山の傘が所狭しと皆様をお出迎えております。
【5人以上の場合は要予約】

和傘の販売について

注文販売のため、現品のない場合があります。
和傘の修理を行っています。詳しくはお尋ね下さい。

お問い合わせ・ご注文はこちらまで



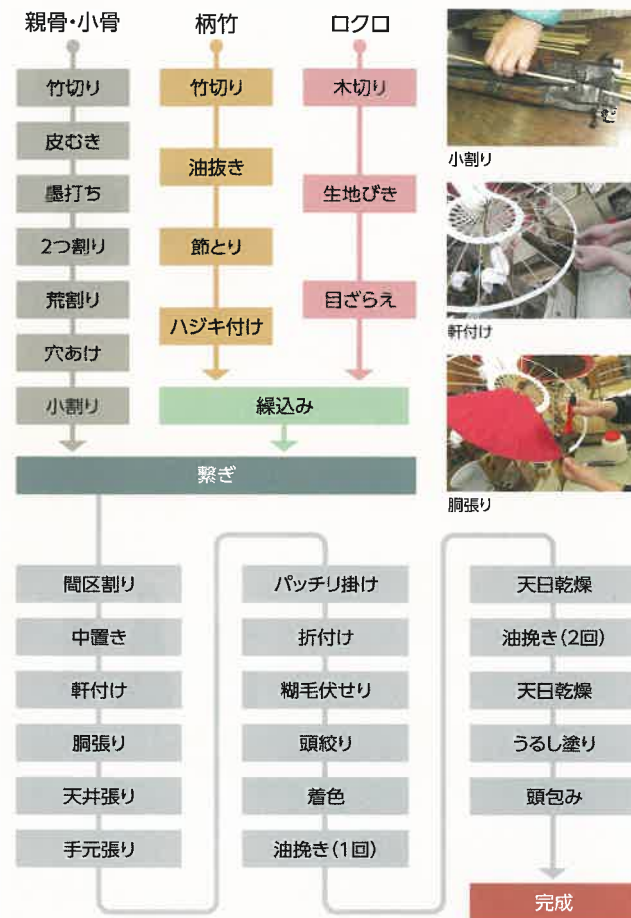
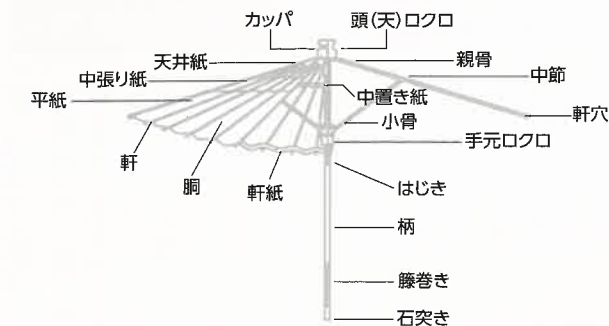
和傘伝承館《傘作り工房》

〒689-3402
鳥取県米子市淀江町淀江796
TEL (FAX 兼用) 0859-56-6176
●不定休の為、連絡の上お越しください。



傘の製作工程

1本の竹から和傘を完成させるまでには70以上の工程がありますが、主要な工程は次のとおりです。



淀江傘のあゆみ



▲今の風景

▲最盛期の浜干し

起こり

淀江傘の起こりは、文政4年（1821年）に倉吉から淀江に來た倉吉屋周蔵が傘屋を開いたことによるといわれています。そして、明治14年に津山の西金蔵が傘製造の指導に招かれたのが、淀江傘発展の糸口となりました。大正時代になると、地元の製造業者数71軒、年間生産量17万本に達し、出荷先は県内はもとより西日本一円、遠くは関東東北などの32県に広がりました。

隆盛

淀江は、日野川の流砂が堆積した砂浜が広く、そこに1万本以上の傘を一度に干すことができたと、良質の真竹が入手しやすい土地柄であったことも、淀江傘発展の要因だったといえます。淀江傘は、間屋傘、番傘と言われる大衆傘が主流であり、実用性に富み、丈夫なことで有名であり、戦後の傘不足の折には、年間生産量50万本にも達しました。

継承

しかし、洋傘の普及により昭和26、27年をピークに廃業する者が増え、昭和59年には最後の製造業者も廃業しました。この間、昭和51年に淀江傘製造技術が旧淀江町の無形文化財に指定されています。現在では、「淀江傘伝承の会」の職人によって、地元の真竹を使用し、1本1本の傘骨から最後の仕上げまで手作りで淀江傘の製作が行われています。日常使いはもちろん、贈り物やお土産に使われる方も多いです。さらに現代の暮らしに合わせたインテリア商品としても人気です。

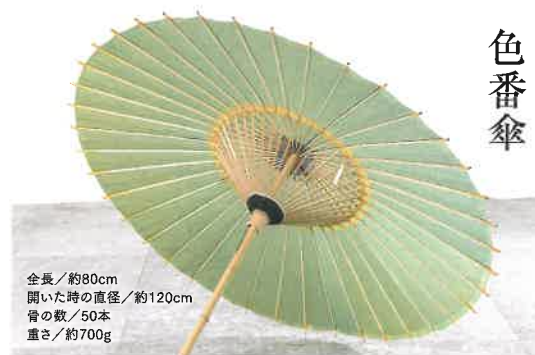
令和3年（2021年）は継承されて2000年を迎えました。



淀江で作られる主な傘

油を挽いた傘は、年に数度は雨に差し、陰干しすると長くお使い頂けます。
また、独自の糸飾りは珠玉の美しさを誇り、丈夫で長持ちし、職人の真心がこもった古き良き「本物」の和傘で一生の宝物です。
そして、淀江では「させ・干せ・カラ傘」ということわざが残っています。

色番傘



全長／約80cm
開いた時の直径／約120cm
骨の数／50本
重さ／約700g

「唐傘」「間屋傘」とも呼ばれ淀江で一番多く製造されていた傘で、素朴で質実剛健、日常使いに適したシンプルな構造と骨組みの美しさが鮮明に伝わります。色のついた和紙を張った「色番傘」、傘の縁に黒い和紙を張った「裾黒番傘」などがあります。最近では家紋や屋号を書いた裾黒番傘が好評です。



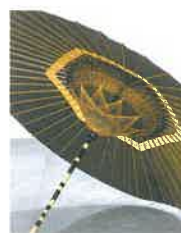
裾黒番傘

蛇の目傘



全長／約80cm
開いた時の直径／約120cm
骨の数／50本
重さ／約700g

この蛇の目傘の糸飾りは、桔梗飾りと呼ばれ、和傘の中に雅な世界を創り出しています。淀江では、胴に張る紙の模様により「うめ型」と「亀甲型」の2種類の蛇の目傘があります。この地には、昔から両親が娘の末永い幸せを願い、蛇の目を持たせて嫁がせる習慣がありました。



亀甲型

野点傘の糸飾り

本桔梗の糸飾りと呼ばれ、淀江傘独自の糸飾りです。茶会に使われるだけでなく、旅館やホテルのロビーに置かれ、お客様を「おもてなし」します。豪華で優美な世界へ誘います。



全長／約3m 開いた時の直径／約2m40cm
骨の数／80本 重さ／約5kg

ランプスタンド

玄関や床の間に置かれ、和風のインテリアとして使用されています。和の雰囲気を出します。また、傘寿の祝いなどの記念に贈る方も多く、持ち運びもコンパクトなため海外などのお土産に喜ばれています。

淀江傘体験のご案内

因州和紙で作る折り紙傘

[直径15cm]



所要時間	約1時間(お持ち帰り可能)
体験料金	1,100円(税込)
予約の有無	2週間前
最低催行人数	5名以上
体験年齢	小学生以上

ランプスタンド 胴張り体験

[㊤直径36cm・㊤直径25cm]



所要時間	約2時間(お持ち帰り可能)
体験料金	㊤11,000円(税込) ㊤6,600円(税込)
予約の有無	2週間前
最低催行人数	5名以上
体験年齢	小学生以上 ※はさみを使用します

※内容、金額等を変更する場合があります。